

## 会 議 録

会議の名称	第4回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成27年10月29日(金) 開会：午後2時00分 閉会：午後4時00分
開催場所	行田市役所 305会議室
出席者氏名	川島将史座長、尾澤照男委員、山崎孝子委員、羽鳥英樹委員 野本祐子委員、島田ユミ子委員、戸塚昌利委員、小川雅以委員 吉田岳雄委員、小池利昌委員、櫛引浩士委員、宮本伸子委員 新井弘美委員、篠田幸一委員、中島和幸委員、島田 徹委員
欠席者氏名	山本栄治委員、小菅克祥委員、伊東政信委員
事務局	企画政策課：岩田課長、浅見政策推進幹、横倉主任 男女共同参画推進センター：岡田所長 商工観光課：磯貝課長 農政課：柴崎課長 学校教育課：柿沼課長 保健センター：森原所長
会議内容	(1) 行田市まち・ひと・しごと人口ビジョン(素案)について (2) 行田市まち・ひと・しごと総合戦略骨子(素案)について (3) その他
会議資料	○行田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(素案)【資料1】 ○行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(素案)【資料2】 ○行田市人口ビジョン・総合戦略の検討経過について【資料3】 ○人口ビジョン・総合戦略(素案)に対する意見記入票【資料4】
その他必要事項	傍聴者 3名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 あいさつ（川島座長）</b></p> <p><b>3 議事</b></p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早速議事に移らせていただく。議事については、本会議設置要綱の規定に基づき、川島副市長に座長としての進行をお願いしたい。</li> </ul>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事に入る前に、会議の公開又は非公開に関する取扱いについてご説明申し上げます。本日の第4回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議は、議事の中で個人情報を取扱う予定がないことから、公開とさせていただきます。会議録については、委員名を明記のうえ、市政情報コーナー及び市のホームページにおいて、後日公開する。</li> <li>・本日は、行田市版人口ビジョンと総合戦略の各素案について説明させていただきますので、ご意見をいただきたい。はじめに、議事の（1）「行田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）」について、事務局より説明する。</li> </ul>
事務局	<p><b>（1）行田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）について</b> （資料1「行田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（素案）」により説明）</p>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ今の説明について、何かあればご発言をいただきたい。</li> </ul>
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・49ページの人口推計について確認したい。総人口の推移については、社人研準拠の推計と比較して、独自推計では2060年時点で15,000人多くなることは分かるのだが、65歳以上人口比率の推移について、独自推計では2045年頃から横這いになって徐々に下降していくのに対して、社人研準拠推計では比率が上がり続けるのは何故か。</li> </ul>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これについては、65歳以上人口のグラフは、総数ではなく割合で表している関係で、独自推計においては合計特殊出生率の上昇により若い世代の比率が上昇するため、相対的に65歳以上人口の比率が減少しているものと考えられる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足として、48ページの年齢階級別の人口推計結果も参照してほしい。総人口の減少も影響していると思われる。</li> </ul>
宮本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合戦略の方に、雇用増や子育て支援に関する施策が載ってくると</li> </ul>

事務局	<p>思うが、そういった施策を実行していくことと、それにより社人研推計と比較して15,000人増やすことがどの程度関係しているか。総合戦略の説明を聞いてから意見したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンと総合戦略の整合は難しい部分である。総合戦略は平成27年度から平成31年度の5年間の計画で、各分野の指標を設定し、それをクリアするために各種施策を行うものであり、目標をクリアした場合の人口の増減については一定の推計は行っている。例えば、総合戦略の10ページでは、転入者数を目標値として設定している。また、合計特殊出生率についても同様に設定している。しかし、各分野に位置付けた施策により、全体として人口を具体的にどの程度増加させることができるかという見込みは難しく、その具体的な数値については、現在のところ記載していない。総合的に施策を推進していくことで目標を達成しようとするものでもある。</li> </ul>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用機会の創出などによって人口増を図るとするのは、定性的な一般論としては分かりやすい説明だが、定量的な把握は実際にはなかなか難しいところだろう。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンは、今現在の行田市の状況を細かく分析していると思う。1点確認だが、29ページの人口推計の段階的改善案について、先ほどの説明の中で、合計特殊出生率2倍にするという説明があったが、具体的に何を2倍にするのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率の上昇に関して、国の長期ビジョンでは、「5年間で0.1上昇」させるという考え方だが、それに対して、段階的改善案1及び2はその2倍のスピードである、「5年間で0.2上昇」する設定をした案である。段階的改善案3及び4は、国と同様に「5年間で0.1上昇」するという設定をした案である。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7ページの合計特殊出生率の推移の折れ線グラフでは、上がったたり下がったりしながらも、国、埼玉県、行田市がおおむね同傾向を示してきたが、2005年以降は、国・県はわずかではあるが上昇しているのに対して行田市は下降している。合計特殊出生率は、どの程度のスパンで上がったたり下がったりするものなのか。2005年以降、特段何もしなくても、国・県は上昇し、本市は減少し、またそれがこの先も続くのかなど、このグラフを見ただけでは分からな</li> </ul>

	<p>い。また、先ほどの合計特殊出生率だが、国の2倍のスピードで上昇させるというのは、計画書の上では言えるのかもしれないが、2倍の理由について説明がなかった。国はそのことに関して何か指針を示しているのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国においても、長期ビジョンと総合戦略を昨年末に策定しており、国全体で2060年に1億人規模の確保を目指している。そのためには、2040年時点で人口置換水準である合計特殊出生率2.07を達成する必要があるとしており、そのシナリオとして、合計特殊出生率を5年間に0.1ずつ上昇させるとしている。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標値だけでなく、何を行うことでその数値が達成するのか、示す必要があるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口ビジョンは、あくまでも人口の現状分析と推計を示したものである。ここに示した目指すべき方向性を達成するための5年間の具体的な施策の方向性は、総合戦略に記載している。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2005年頃から国と埼玉県の合計特殊出生率が上昇し、本市の数値は下降していることについては、どのように解析しているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つ想定されるのは、合計特殊出生率は15歳から49歳の女性人口を用いて算出されているが、本市においては、この層の女性が減少したことが、合計特殊出生率が低下した要因の一つと考えられる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、都内に通勤する父親の帰りが夜遅くなるとうると、母親にとっての男女共同参画の視点で見た子育て環境の確保には難しさがあるのではないか。このようなことは、子育てをすることに対して、社会としてのマイナス要因として考えられるのではないか。</li> <li>・ また、出生率が低いことは、地理的条件や東京との距離が類似している利根地域管内で共通している。出生率が低い要因はこれだという明確なものが把握できれば、そこへ向けて力強い施策も打てる。この点は、さらに深掘りして実態を捉えていかなければと考える。</li> </ul>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他に意見がなければ、この議題はここまでとし、追加の意見は11月6日までに寄せていただきたい。続いて、(2)「行田市まち・ひと・しごと総合戦略」について、事務局より説明する。</li> </ul>
事務局	<p><b>(2) 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について</b> (資料2「行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)」により説</p>

	明)
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 ページの雇用創出数の目標値で、平成 26 年の基準値 114 人に対して平成 31 年の目標値 342 人というのはどのように算出した数字か。単純に掛け算をすれば、500 人以上になるのではないかと。目標値が低いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準値である平成 26 年の雇用創出数は、企業誘致の奨励金の対象となった者が 114 人という意味だが、平成 26 年の数値は平成 25 年と比較して高かったため、平準化した上で累計値を見込んだ結果である。この数値の高低についてはそれぞれの意見があると思うので、担当課と協議したい。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業は生き物である。入ってくる場所もあれば、出ていく場所もある。進出企業や撤退企業の数などの、プラスマイナスは把握していないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この指標は、今後行う事業の効果を検証することを目的としている。企業活動については、市の施策以外にも様々な要因で進出、撤退が行われると思う。様々な要因が複雑に噛み合っていて成り立っている企業活動について、その要因までも踏まえた指標を設定することは困難であると考えている。</li> </ul>
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 4 の意見票を提出した後は、またこの会議を開催するのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来月 18 日に、第 5 回会議を予定しており、意見票によっていただいた皆様のご意見を反映させたものをご確認いただきたい。</li> </ul>
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業誘致は他の自治体でも力を入れているので、それらと同じやり方では通用しないだろう。行田市の特色を出した企業誘致が必要ではないか。また、誘致の奨励金を出す条件の緩和も必要ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、原則として全ての市町村が総合戦略を策定し、地方創生に取り組むので、他自治体との差別化は必要だと思う。本市の企業誘致奨励金は、県内では最高水準で設定している。ただ、これも時間が経てば徐々に同水準になってくるかと思う。</li> </ul>
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光振興については、観光ボランティアの人数が少ないので募集することや、観光の交通アクセスの改善、マップの一元化も必要と思う。また、細かな点ではあるが、古代蓮の里は、物販店舗や飲食店の運営が改善されると観光客も更に増えるのではないかと。現在の売</li> </ul>

<p>事務局 宮本委員</p>	<p>店は小さく分かれているが、ワンフロアになっていると利用しやすくなる。飲食店も、少し混雑するととても待たされて、使い勝手が良いとは言えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考にさせていただくとともに、担当課へ伝えさせていただく。</li> <li>・総合戦略は、ある程度総花的になるのは仕方ないと思うが、もう少し絞り込んでもよいのではないかと。</li> <li>・合計特殊出生率の問題は、出産する世代の人が少ないということに注力すべきである。では、なぜ若い人が行田市に定着しないかという点、企業誘致も大事ではあるが、ただ雇用があるだけでなく、それが正規雇用であり、安心して子どもを産んで育てられる生活ができるかが大事なのではないか。職業安定所の委員さんもいるので、もう少し分析をして、この点に関する施策を盛り込めないかと思う。また、3人目の子どもを産むと手厚い支援があるというのは様々な市町村で見かけるし、実際は3人子どもを持つというのは大変なことである。だとしたら、2人目を産んだ人へのインセンティブがあると良いのではないかと。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用の実態は、大きな問題と思う。持ち帰って検討したい。</li> <li>・また、多子世帯に対するインセンティブは重要であると考えている。市民意識調査では、子どもの数についての理想と現実が1.0人程度の開きがあった。また、子育てに対する経済的支援を求める声も多くあった。施策はここに書いていないことは実施しないというわけではない。担当課とも協議していきたい。</li> </ul>
<p>山崎委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日田んぼアートがギネス認定され、古代蓮タワーのエレベーターが相当混雑するなど、多くの人々が本市へ訪れている。こうした影響力は大きいので、一過性のものにならないようPRしていけば、行田市の活力になるのではないかと。</li> </ul>
<p>島田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業安定所の委員さんも参加されているのでお聞きしたい。出産した後に復職できず、職安へ行ってもなかなか仕事が見つからない、保育所にも入れない、そういう方の相談を受ける機会が、きつずプラザあおいを運営する中で増えている。現場での実情から話していただけることはないか、あるいはこうした相談を受けている者へのアドバイスはないか。</li> </ul>

篠田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークでは、本人の代わりに求人情報を収集して提供するようなことも行っている。行田支所は規模が小さいので設置していないが、子連れで相談ができるコーナーや専門の相談員を置いているハローワークもある。県南では保育所の空きがないという状況があるが、本市ではそこまでの状況ではないと認識している。保育士の就職のあっせんもしている。心配せずにおいでくださいと申し上げたい。</li> </ul>
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が再就職でき、働き続けられる行田市になることを望んでいる。子育ての面でも雇用は需要だと思う。</li> </ul>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産年齢人口の減少に対しては、女性の活躍も関係してくると思う。皆さんの意見を踏まえて内容を精査し、今回は最終案としてお示ししたい。また、他に意見があれば資料４の意見記入票で提出していただきたい。</li> <li>・続いて、議事の（３）「その他」について、事務局より説明する。</li> </ul>
事務局	<p><b>（３）その他</b></p> <p>（資料３及び資料４により、今後の日程、意見票の提出などについて説明）</p>
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明のとおり、意見があれば１１月６日までに事務局までお願いする。また、次回の有識者会議は１１月１８日午後１時半より商工センター４階の４０１研修室にて開催する。今回は本年度の最終回と予定しており、人口ビジョン及び総合戦略の案をお示しする。以上をもって議事を終了とし、事務局にお返しする。</li> </ul>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上をもって、第４回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>